

令和4年度 養成所評価

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

	自己評価	学校関係者評価
I. 教育理念・目標	4.0	4.0
	教育理念は明確である。地域に貢献できる学校経営の中長期ビジョンを明確にする	教育理念は明確であり、本年度の学校目標も適切に定められている。
II. 学校運営	3.8	3.6
	働き改革に取り組み超過勤務は削減しているが、根本的な業務改善は行えていない。NHO 回線が不安定で、教員の会議や研修会への参加に不具合が生じている。今後、回線の安定性の確保が必須である。	国立病院機構付属養成所の運営にかかる方針に則り適切に運営されていた。教員の欠員状況を改善されたい。
III. 教育活動	3.8	3.8
	COVID-19 感染予防を行いながらすべての教育計画を実施した。前講師への授業評価のフィードバック 3 月末にすべて終了した。次年度はタイムリーにフィードバックすること、回収率の向上に向け回収方法を検討する。	COVID-19 感染対策をふまえ、ICT を活用しながら適切に対処できていた。特に実習に関する施設の調整、時期等の調整が柔軟になされていた。実技修得の達成困難な状況を踏まえ演習等の工夫がなされていた。
IV. 学修成果	2.8	3.6
	国家試験不合格者 1 名であった。不合格者の学習の分析と対策を立てる。卒業生の動向調査を行っていない。次年度 60 周年と記念の年となることから、同窓会の協力を得て動向調査の実施を計画している。	学生の学力強化対策として、学力別支援、個別支援等で強化されていた。国家試験不合格者は、1 名で全国平均を大きく上回った。また、技術面の統合学習として、卒業前に多重課題設定演習を実施し、強化が図られていた。
V. 学生支援	3.7	3.8
	感染予防対策を継続した結果、クラスターの発生はなかった。経済的な支援として高等教育の就学支援新制度への参加や職業実践教育課程の取得を継続している。	クラス担任だけでなく、全員の教員が学生の相談に、きめ細やかに対応していた。最終の学生満足度調査では 16 項目の評価は 3.0-3.7 / 4 であり満足度は高い。
VI. 教育環境	4.0	3.9
	すべての講義を対面で実施し、10 月より通常教室での講義に変更した。実習もすべて感染対策をしながらすべて臨地で実施できた。実習指導者研修Ⅲの実施・インターンシップの受け入れや会議内での学習会を行うことで、看護教育者としての能力向上を図った。	欠席者に対しても、リモートを活用し教授できる体制を整えていた。今後もリモートでもできる体制を維持して欲しい。教材・図書の整備に対する学生満足度は 3.3 / 4 であり、更なる整備を期待したい。
VII. 学生の受け入れ募集	4.0	3.9
	教員の高校訪問の実施、募集活動を昨年度より 2 回増やし実施した結果、参加者は昨年度の 1.1 倍となった。しかし、受験生の大幅な確保につながらず、追加試験を 2 回実施したが、入学生は 76 名と定員を満たしていない。	学校説明会、ホームページ更新等、募集活動を強化した結果、参加者が増加（前年+41 名）したが、前年より出願者の低下、辞退者の増加があり定員を確保できなかった。
VIII. 財務	3.7	4.0
	地域医療介護総合確保基金事業費補助金を獲得できている。不足分は母体病院の補助を受けている。必要な教材は計画通りに試行する。	適切に対応できている。
IX. 法令等の遵守	4.0	4.0
	指定規則を遵守し運営している。自己点検自己評価を中間でも行いタイムリーに改善するよう取り組んでいる。	適切に対応できている。
X. 社会貢献・地域貢献	2.6	3.0
	地域のふれ合い祭りへの参加や地域情報発信紙への投稿、学校説明会での公開講座を行った。しかし、HP の更新がタイムリーにできず、情報発信の不足があった。	コロナ禍の中、地域の行事に教員が参加、10 回の公開講座の実施などの取り組みは評価できる。

令和4年度 総合評価

1. 教育課程に対する取り組みと評価

国立病院機構および母体病院の理念に基づき、目標を意識した取り組みがなされていた。COVID-19感染拡大が続く中、目標達成と感染対策双方から、課題解決に向けて教職員が団結して取り組んだことは大いに評価できる。

1) 感染対策と教育計画のマネジメントについて

COVID-19感染対策を徹底した結果、学生、教職員の感染者は計61名であったが、カリキュラム運営に支障は来さなかった。実習施設にクラスターが発生するなど実習施設確保が困難な中、関連病院等の協力、実習期間の変更など、的確な判断と柔軟な対応、調整を行い、ほとんどの実習を臨地実習として体験できたことは評価に値する。後期は、ほとんどの講義は対面に戻し、計画どおりに実施できた。

2) 国家試験は1名が不合格であったが、全国平均を大きく上回る成果であった。各学年担任を中心に、能力別あるいは、個別指導を実施、またリモートによるテストの実施など、きめ細やかな支援を行っていたことは評価できる。

3) 関連施設病院への就職は93.9%と安定しており、また神奈川県内の就職率は昨年度より上昇した。関連施設で臨地実習を行なうことができた点が、学生の就職への動機づけに影響していると推測された。

4) 学生募集に関しては、リモートなども利用し、昨年度を大きく上回る参加者を得ていた。最終的に76名の入学者となり、入学定員を満たすことはできなかったが、定員に近い人数を確保できたことは、この努力によるものと思われる。新規大学が増加する中において、定員の確保の困難さは増すが引き続き募集活動を強化されたい。

5) 3年次の最終カリキュラムに関する満足度調査において、16項目中、中間評価において2点台が3項目認められたが、最終では、すべての項目が3.1-3.7/4であり、満足度は向上した。項目の中で、「カリキュラムに対して評価する機会が与えられている。」項目が最も満足度が高く、学生の評価を真摯にうけとめ、改善していこうとする、教職員の努力が評価に影響しているものと推察された。

6) 本年度の新生からカリキュラムが改正された。他の国立病院機構附属看護専門学校との連携により、カリキュラム運営については、概ね支障なく実施できている。次年度からは、演習や実習など旧カリキュラムとの様々な調整が必要と考えられる。更なる準備、調整が望まれる。

2. 今後の課題

1) 3年次の最終カリキュラムに関する満足度調査において、昨年度に引き続き、「わかりやすい授業が多い」が、3.1と低値を示していた。他の学年も、2.7-3.0/4と低い評価となっている。教員の定数が確保できなかったことも要因の一つに挙げられる。その他の関連した要因を分析しつつ、教員の確保、教材研究や教授方法の工夫が望まれる。

2) 各学年1-2名程度の休学、退学者がある。職業教育であるため、キャリアの変更について学生自身が検討することは重要であると考えられる。学習指導だけでなく、キャリア相談、心理相談など、引き続きサポート体制を整備されたい。

3) ICTに対して、様々な対策が取られて改善してきている。今後もリモート学習は必須であること、新カリキュラム改正により、ICT教育が強化されたことをふまえて、更なる整備を期待したい。